

琉球大学学術リポジトリ

日米関係（沖縄返還）10

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43785

H
H
情
收

極秘

次長
参事
事務

アメリカ局長
参事
北米第一課長

政第7539号

昭和44年9月1日

外務大臣殿

米田大使



要処理
首席事務官
南方
渉外調査
航空
協力
調整
査
カナダ
局庶務



沖縄返還交渉担当者情報
9月1日 HHカ4将北米一課長に
述べたことあり。
スチー公使に就任するカ4少将
はCINCPACの計画担当参謀長で
あり、極めて早く昇進した人物である。
政治観は保守的であるが、右のとおり

GA-4

外務省

3043

これよりおぼたしている決り付き、海軍の主流
派に属し、effective communicatorである。
信望があることよりおぼた付き、日本側
としては、カ4少将の如き人物を味
方にならざるは甚だ都合の悪い
存する。

(カ4夫人は社交会において積極的
な活躍振りで定評がある。

(本件情報は本心のネーリ-の
会長等から入手したものである)

カ4少将の略下引渡あり。

~~本心の総領事館に報告す。~~

封

付属添付

本信写送付先

ホ/ルル

GA-4

外務省

CURTIS, Walter Louis, Jr., naval officer; b. Aleshie, N.C., July 25, 1915; s. Walter Louis and Ruth (Dorrell) C.; student U. N.C., 1932-33; B.S., Wake Forest Coll., 1936; postgrad. Gen. Line Sch., 1940-47; Insl. Coll. Armed Forces, 1957-58; m. Janet Hartz Gallagher, Dec. 7, 1950; stepchildren—Janet Gallagher (Mrs. Charles Linson), Linda Gallagher; Comm. ensign USNR, 1937; trans. to U.S. Navy, 1940; advanced through grades to rear adm., 1965; pilot, landing signal officer U.S.S. Hornet, 1941-42; U.S.S. Princeton, 1942-44; air officer in sea U.S.S. Princeton, 1945-47; chief staff officer to comdr. Atlantic Res. Fleet, 1948-50; comdg. officer Scouting Squadron 31, 1950-52; staff officer Office Chief Naval Operations, Navy Dept., Washington, 1952-54; exec. officer U.S.S. Randolph, 1954; asst. operations officer Staff Comdr. Sixth Fleet, Mediterranean, 1955-57; assigned European Command Dir., 1958; Joint Staff Officer, Joint Chiefs Staff, 1959; Office Comm., Joint Chiefs Staff, 1960; comdr. P.S.S. Thetis Bay, 1961-62; U.S.S. Kitty Hawk, 1962-63; chief staff, aide to comdr. First Fleet, 1963-64; asst. chief naval personnel for personnel control Bur. Naval Personnel, Navy Dept., Washington, 1964-66; comdr. Carrier Dir. Nine, 1967; Decorated Bronze Star, Home: Quarters, Naval Air Station, San Diego; Office: Naval Air Station, San Diego.

特

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

- 大政事外務省
- 事務次長
- 巨官官審審長
- 儀書文会管
- 総人電厚計
- 国資長
- 参調折企
- 参領旅移
- 参地中東
- 参北西
- 参北保
- 中南番欧
- 参西東洋
- 参西東
- 参書近ア
- 次総経国万
- 参實統
- 参政技二
- 参国一理
- 参余協規
- 参政経科
- 参社専
- 参道内外
- 参文

総番号(TA) 44298
 69年10月2日 21時00分 米 国 主管
 69年10月3日 10時42分 本 省 発着 稲長

外務大臣殿 下田(大使) 臨時代理大使 総領事 代理

オキナワ問題 (HH情報)

第3117号 特秘 至急(ゆう先処理)
 往電第2781号に關し
 /日HHより木内がちようしたところ次の通り。
 /。アイチ大臣訪米により日米責任者のつめは相当進ちよくしたかに聞いているが、核の問題は大統領任せて、土だん場まで持越されるべしとの状況にはその後なんら変りない。要するに大統領としても「口」國務長官にとつて最後のしゆん問に追い込まれないと決断できないという性質の問題であるからである。しかし「核」だけについて考えるならば、いまどきその存在に固執することは時代さく誤であり、論理的には少くとも撤去を決断せざるを得ず、らつ観してよいと思つている。問題なのは核だけをシングルアウトできず、せん維であるとか、財政問題であるとか他の問題と種々ひつかりがあること。その観点からすれば決してらつ観を許されない。このままで推移するならば本件の結着をめぐり最後のしゆん問においてサトウ総理はいうに及ばず、ニクソン大統領にも大変な負担がかかるもの

外務省

極秘

特

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

と思われる。11月19日からの3日間は日米双方にとり随分きつし折しよになることがけ念される。
 2. 同様に未知数は米軍部である。これまでの國務省の対日せつしよは軍部を気にしながらも独走している。米軍部はとり残されている反面、無言の圧力を加えている感もする。この段階で注目しなければならないのはウィーラー参議長の訪日である。韓国、ベトナムを訪問してオキナワ問題に対する軍部の基本的考えを再確認したいところであり、また軍部としてじよう歩できる限度を見究めたいところであろう。ウィーラー議長は極めて固い、こう直した人物である。しん重、コンシステントであり、またこれはという後継者がいないため、64年から5年間も現在の要職にある。そこで余程注意しなければならないことは、同人に対する訪日中の日本側のアプローチ振りである。その人がらから同人を教育しようとかかつても無意味であり、むしろ逆効果となり得ることに留意する必要がある。従つてあれやこれやとべん解がましいことは避け、なにごともしなかつたかの如く応待するとともに、日本側の最高責任者からはオキナワとは無關係に(と申しても難しいところだが)、日本がアジアで責任を果すしゆく命にあることをインプレツスするようなアプローチがよいのではないかと思う。ウィーラーは結局は大統領の政治的決断につく従するタ

-2-

外務省

極秘

特

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

極秘

イブの人間だがなんとかかんとかいきながえる強じん性があることに注意しなければならない。

3. ベトナム問題で大統領の政策に対する不満はじよじよにこうじてきている。大統領としては10月をどう乗りきるかが最初の大きな山場であろう。学生は大したことはないが、やはり議会とプレスが問題である。ニクソンがベトナム論争にモラトリアムを加えようとしたこと、またグリデル上院議員とのけんかを買って出てベトナム戦終了のタイムテーブルで論争することは、かけ引き上完全な失敗である。今迄「ニクソンの戦争」となつたベトナム戦に対する彼の人気はさがることはあつても、あがることはなく、オキナワとのかね合ひでも種々はもんをもたらし、引を引きそうな問題と思う。日米共同コミニケ中ベトナムがとりあげられる場合には、タカ派、ハト派いずれの思わくにも利用されよう留意する必要があるのではないか。

(3)

特

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

大臣官舎外務省 電信写

事務次長
典房
大臣官舎審議官
長官官舎審議官
儀書文会管轄
総人電厚計
国資長
参調祈企
参領旅移

総番号(TA) 455-78 主管
69年10月9日21時10分 米 国 務 省 発 着
69年10月10日11時15分 本 省 着 精 長

外務大臣殿 下田 大使 臨時代理大使 総領事 代理

オキナワ問題 (HH情報)

第3220号 特秘 至急

往電第3117号に関し

9日HHより木内がちよう取せるところ次の通り。

1. ウィーラー統ばく議長に次ぎナッター次官補。エプス海軍少将が訪日すると聞いている。彼等の任務は本来の安保基地問題に局限されており。オキナワ交渉の問題に余計な口を出さないよう言い含められている。国防省にせよ。ナッター個人にせよ。必要以上にオキナワに触れたがらないうだ。しかし実際問題としてオキナワに全然言及はしないというのはかえつておかしな話であり。特にナッターに対しては長期的展望の観点から日米関係の重要性をといっておけば理解が深まるのではなからうか。同人は内気な。やや女性的の半面があるからその体面をきづつけないようにする配慮が大切である。ウィーラー大将の訪問成果についてはその帰国をまつていづれ情報を提供する。

2. 目下ホワイトハウスにとつての最大の関心事は10月15日のベトナム反戦デーである。急進学生のみもの動きとみることは最早できず。ひん者の行進といつた類のもので

極秘

ア 参地中東
長 北 東 西
水 参北北保
中南審歌
参西東洋
西東

近ア長
参書近ア
次総経国万
長 参質総
参政技二
国一理
参条協規
長 参政経科
長 参社專
長 参道内外
文長

外務省

大 中 小

特

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

もない。学者、言論界、政界はいうに及ばず。実業界も本件動向に多大の関心を払っており。月末に予定されている上院外交委への国務長官、国防長官喚問の動きと相まつて日米交渉にびみように作用するのではないか。ニクソン大統領があぐらをかいていることを許された時期は過ぎ。今後でい流的、構造的に戦争終そくの気運はたかまることはあらずも。減少し得ない状況にある。ニクソン大統領が公けの場所で72年以降にベトナム戦争が継続することを予想せしめるが如きステートメントを今後なし得るかどうかはなはだ疑問である。

3. トレザイス次官補の訪日は失敗すべくして失敗した側面がある。同次官補の今次訪問は従来と異り。商務省がずい分とかい入した。即ちスタンスとしてはトレザイスミッションが成功されては困るので。わざと日本側に容いにのめるような要求を提示せしめ。日本との交渉の困難さを自分の過去の経験との関連においても示そうとしたのである。スタンスとしては日本が理不じんであることをますますインプレスする必要がある。自由化とせん維の問題がサトウ総理を迎えるこの直前にますます大きくクローズアップされようとしている。他方輸入制限立法のチャンピオンたるホリングス上院議員の動きは最近すっかりによつてしま

極秘

外務省

-2-

特

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

つた。同議員はヘイレズワース最高裁判事のかつぎ出し役を引き受けているところ。同判事所有の株式をめぐり、裁判官としてのインテグリティが問題化し、その任命があやうくなり、これにぼうさつされている同議員はもはやせん維どころではなくなつてしまつている。「ヘ」判事は南邦せん維業界においてはその労働問題のハンドリングのため大変評判よく、業界としてはサーモンドに「ヘ」判事のかつぎ出しをたのんだのでは反ばつを招くため、民主党でしかもサーモンド議員よりかどのたたないホリングス議員に指名をやらせた経緯がある。ホリングス議員としてはとんでもない役目を引き受けたと自ら労している。ヘインズリース判事の任命が実現すればホリングス議員に関する限りせん維業界に対する借りをかえしたこととなり、輸入制限立法で激しくたらまわる度合いは多少へるかも知れない。ヘイレズワース任命の紛き^{つう}はニクソン政権にとりベトナム反戦問題とともに、オキナワをはるかにまわるきつい試練であり、同政権になつてから起きた問題としては最大の事件である。

(3)

- 3 -

外務省

極秘

特

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

大蔵省
事務次長
典厚
臣官官審審長長
儀書文会高総

総人電厚計
国資長
参調析企
参領旅移

ア 参地中東
長 北西
米 参北北保
中南
参一ニ
欧 参西東洋
長 西東

近ア
参書近ア
経 次総経国万

長 参實統
経協長 参政技二
参 国一理

参条協規
長 参政経科

国 参社専
長 参道内外
文 一ニ

主管

米局長

訂正報

(特秘)

電信課
44.10.11

9日付米国来電才3220号(TA 45578)
オキナワ同類(HH情報)3ページ上から
5行目末尾を以下のとおり訂正願いたい。

南邦せん維業界 → 南方せん維業界

(3)

外務省

極秘

特

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

大務外外官
 務次官
 官審審長
 備書文会官給
 総入電厚計
 国資参調析企
 長領移参領旅移
 ア地中東
 長北北保
 光長
 中南審
 参西東洋
 西東
 近参近ア
 長次総経国万
 長参貿統国
 参政技二
 国一理
 参協協
 国参政経科
 軍社専
 参道内外
 長情長文長
 一二

総番号(TA) 47508
 69年10月21日21時10分 米 国 管
 69年10月22日10時54分 本 省 署 米長
 外務大臣殿 下(2) 大使 臨時代理大使 総領事 代理

オキナワ問題等 (HH情報)

第33/4号 特秘 至急 (ゆう先処理)

往電第3266号に関し

21日、HHが当方にもらした所次の通り。

1. ウィーラー大將はオキナワから核を撤去するのは間違
 いであるとの自説をかえておらず、マイヤー大使に対して
 もその旨強調して陳述しているはずである。従つて、統合
 参謀本部はウィーラー議長の極東訪問によつて、これまで
 の固い立場をかえるには至っていない。他方、そのオキナ
 ワ問題に対する方策が一層具体化しているかという点、ウ
 イエトナム問題に追われて依然ばく然たるものにとどま
 っており、対処方針に対するつめは行われていないと聞いて
 いる。しかし、同大將は日本の総理及び外相との会談にか
 なりインプレッスされたと承知しており、然りとすれば、
 同大將としてもニクソン大統領の政治的決断に従いやす
 くなるということ。今次訪日はその意味で日本にとつて
 プラスに作用する素地を作つたと言ふことが出来よう。統
 参、JSAがオキナワ問題でどのようにつめて行くか、今後

外務省

特

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

ともフォローする。
 2. 11月3日の大統領のヴェトナム演説がロジャース
 長官のヒアリングが演説後の5日に持ち越されたことによ
 つて示された通り、内外の注視の的となつてゐるが、先般
 一部報道にみられた30万撤兵説は明らかに政府側のトラ
 イアル・バルーンであつたと承知している。政府首のうは
 先週末もキャンプ・デーヴィットのニクソン大統領をいそ
 がしく訪問した。同演説はどたん場までその内容を確定
 することは困難と思われるが、ヴェトナム戦の不評が1
 5日の反戦デーで予想以上に実証されたため、米大統領は
 本件演説でかなり実質的撤収にふみ切る所存なる旨聞いて
 いる。ただし、タイム・テーブルを付するようなくはしな
 いと言われている。
 3. 軍部は大筋として3日の演説に反対であるが、昨今の
 内外情勢にかんがみ、大統領が撤兵方針を打ち出すのであ
 ればこれに従うこととした。しかし、軍部としてはあきら
 め切れず、今後米側の撤兵の過程で共産側がばう若無人に
 振るまうのであれば、これを口実に今度は逆に世論を味方
 にしてまき返しを計りたいと考えている位である。撤兵論
 者からすれば軍部の往生ぎわが悪いと思うであろうが、米
 軍部の立場に立てば、せつかく軍事情勢が一見好転してい

- 2 -

外務省

特

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

極秘

るだけに撤兵によつて南越がガタガタとなり。行く行くはカムラン、ダナン、プレイク等々オキナワにひつ適するばう大な基地を敵の手に渡すか^{あるいは}これを自らはかいしなければならぬことが目に見えているだけに到ていしのびがたいものがある。かように一部軍部には撤兵演説は止むを得ないとしてもその後はなんとかまき返しの機会が与えられるまで時間をかせぎ得ると期待しており、その間は 일단 オキナワ基地にひきさがり、右に対する依存度を増大させるほかなしとの考え方が一部に出てきていると承知している。もとより、ばく然と考えられていることで、「オキナワ立てこもり構想」として具体的な計画にまでエラポレートするにも//月中旬までには間に合うべくもなく、むしろ総理訪米後、ベトナム解決までの間におを引く問題であろう。

4. かように在オキナワの後方基地に対する依存度が増えるようなことになれば、日本にとつてマイナスに作用するといふべきものかも知れないが、且且としては、軍部は冒頭に述べたとおり、また、ベトナム演説に応じたことによつても示されている通り、大統領の決断に従うほかなぬものと思つている。

(3)

特

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

天官外務省
 務次官
 次官
 臣官官審長
 儀審文会宮給
 給人電厚計
 國資長
 参調析企
 領移
 参領旅移
 近々長經
 参書近ア
 次総経國万
 長經協長
 参政二
 國一理
 参協規
 長國
 参政経科
 軍社専
 参道内外
 一

総番号(TA) 50058
 69年 月 4 日 9 時 30 分 米 國
 69年 11 月 5 日 09 時 57 分 本 省 菅 野

外務大臣殿 菅野 大使 臨時代理大使 総領事 代理

オキナワ問題 (H H 情報)

第3480号 特秘 至急 (ゆう先処理)

往電第33/4号に関し

4日H Hが当方にもらしたところ次の通り。

1. 昨3日よるの大統領ウイエトナム演説は早期撤兵とタイム・テーブルを付することに反対する米軍部の主張を大はばに採り入れたものである。このことはオキナワ交渉との関連で日本にとりプラスであつたと考える。すなわち、大統領が世論の圧力にくつしウイエトナムで次々に譲歩を重ねるならば、米軍部はこう直化し、せめてオキナワのがじようにたてこもるべしと大統領に強く迫り得ることとなるのに反し、戦況が好転していることをはい景に、一応ウイエトナムにとどまり、ウイエトナム化を心がけるといふことになつたからである。従つて、國務省としても国防省を抑えやすくなつたといえる。

2. 今次オキナワ交渉を通じて、4月の段階では米國としては核は譲歩することは止むを得ざるもそのかわり自由発進の権利は保持しておこうとばく然と考えられていた。しかし日本側は核にはあまり触れず、専ら自由発進の事前

極秘

外務省

特

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

協議につき執ように攻めたててきた。そうこうしているうちに、核はふせられたままで、ふたをあけてみたら、米側は何時の間にか自由出撃で譲られ、核でも譲られる結果となつてしまつた。米政府部内に日本の交渉ぶりをみて「全くうまくしてやられた」とみる向きがあるのはあながち不思議ではないと思う。米側が今更、核でまきかえしをはかろうとしてもおそすぎる感がするが、このまましてやられるのも業はらであり、核の有事持込みを大いに話題にしたいというのが当國政府部内の心境である。核は、大統領マターと言い触らされ、観念されすぎてきたため結局は、総理との会談で大統領が決断をくだすほかないと思われる。

3. オキナワ交渉とウイエトナム演説との関連は前述のとおりであるが、他方、同演説の評判は決してよくないことも、ほどほどに日本にとつて好都合ではないかと思える。議会共和党上院議員の反応は、演説に政策上の積極味がなんらないことから、タカ派もハト派もすべて失望している。ニクソンがハンフリー派はともかくジョンソン派をも敵にまわすように導いたのは得策でなく、「サイレント・マジョリティ」と役にたたないことを言つたのは今後の道をけわしくするばかりであり、フルブライト外交委員長も既に大きく身構えている。自分等 (H H) の観方はひ相か

極秘

外務省

特

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

極秘

も知れないが、ヴェトナムでがん張れるのか、グアム島ドクトリンでひかざるを得ないのか米側当局者が半信半疑のまま総理を御迎えするのであるから、日本側の確信ある所信説明にしたがうほかなく、また、それが大統領にとつてもリアシュアリングであると考える。

(3)

